

恩師 林 千博先生を偲んで



昭和三十一年卒
安陪 稔

洛友会報

京都大学工学部
電気系教室内
洛友会
京都市左京区吉田本町

京都大学名誉教授林千博先生には、昭和62年5月25日午後3時56分、急性呼吸不全のため、満76才でご逝去になりました。学問一筋の純粹な生涯を送られた先生にふさわしく、枕頭に書物を置きながらの安らかなご最期であつたと承っております。

林千博先生は以下のご略歴にも示されますように、ご専門の非線形振動のご研究におきまして、世

界の先駆者、権威者として数々の輝かしいご業績をあげられますとともに、広い学識と卓越した洞察力、むろんに豊富なご経験をもとに、多数の優れた人材をお育てになりました。先生の主たるご著書でありますマグロウヒル社刊行の“Nonlinear Oscillations in Physical Systems”は世界各国語に翻訳され、非線形振動の研究を志す人々の貴重な教科書となつております。さらに先生はいつも「国際的に通用する仕事をめざせ」と私達門下生に教えられますとともに、先生自ら範示して、米国マサチューセッツ工科大学、コロラド大学をはじめ、ソ連、ポーランド、東独、西独など諸外国において客員教授あるいはご講義を受けて、謹んで追悼の言葉を述べさせて頂きます。

林千博先生は以下のご略歴にも示されますように、ご専門の非線形振動のご研究におきまして、世

ますなど、余人には真似のできない活躍ぶりでありまして、Professor Chihiro Hayashi の門下生であると自己紹介をするだけで、初対面の外国の学者と打ちとてお話しできるという、得がた恩恵を私達門下生に与えて下さいました。

このようないい活躍ぶりでありまして、Professor Chihiro Hayashi の門下生であると自己紹介をするだけで、初対面の外国の学者と打ちとてお話しできるという、得がた恩恵を私達門下生に与えて下さいました。

私は先生のようなすばらしい指導者、研究者の門下生であること、常日頃から誇りに思い、それがまた私の日々の励みでもあります。感動し、楽しい時を過ごさせて頂きました。

今、先生とのお別れに臨み、私の心中で先生の存在が如何に大きなものであったかを痛感しております。今後、先生の数々のお教えを糧として、努力を続けていく所存であります。

先生のご冥福を心よりお祈りしました。

林千博先生ご略歴

先生の記念祝賀号として刊行されました。

先生は学問に対しても常に厳しく、かつ真摯に取り組まれ、私達門下生に自ら範を示しながら、厳しくご指導下さいました。先生から授かりました数々のご指導を肝に銘じて、今後の指針とさせて頂きます。

また、先生は学問以外の場では常に温かく、やさしく私達に接して下さり、奥様ご家族ともども心から歓待して下さいました。北白川のお宅が私達門下生のサロンとなり、何人の門下生がお宅に泊めて頂いたか、数え切れません。先生のレパートリーの広いご趣味に

明治44年5月23日 京都府にて生まれる
昭和6年3月 第三高等学校理科甲類卒業
昭和9年3月 京都帝国大学工学部電気工学科卒業
昭和9年4月 三菱電機株式会社入社、中央研究所勤務
昭和10年8月—昭和11年7月 米国ウエスチングハウスマス電機会社勤務
昭和20年6月 論文「変圧器回路の低周波電気振動に関する研究」を提出して工学博士の学位を受ける

昭和50年4月 京都大学を停める
昭和50年5月 大阪工業大学教授に任命される(昭和62年3月末日まで)
昭和55年11月 東北工学院名譽教授の称号を受ける(中華人民共和国)

昭和24年2月 教授に任命される
昭和24年5月 論文「非線形振動の研究」を提出して理学博士の学位を受ける
昭和30年9月—昭和31年8月 米国マサチューセッツ工科大学客員教授
昭和36年9月 国際理論および応用力学連合(IUTAM)非線形シンポジウム組織委員
昭和40年5月—昭和42年4月 電気学会副会長
昭和40年9月—昭和41年1月 米国コロンビア大学客員教授
昭和41年2月—昭和41年6月 米国マサチューセッツ工科大学客員教授
昭和41年8月より現在に至る 国際非線形力学会編集委員
昭和44年4月—昭和48年3月 電子通信学会非線形問題研究会専門委員長
昭和44年6月 「非線形振動の研究」に對し日本学士院賞を受け
昭和50年4月 京都大学を停める
昭和50年5月 京都大学名譽教授の称号を受ける
昭和50年5月 大阪工業大学教授に任命される(昭和62年3月末日まで)
昭和55年11月 東北工学院名譽教授の称号を受ける(中華人民共和国)

昭和57年11月 獲二等瑞宝章受章
昭和60年9月 国際非線形力学会
誌第20巻5・6月号が林千博教
授記念祝賀号として発行される
昭和62年5月25日午後3時56分
逝去

昭和57年11月 獲二等瑞宝章受章
昭和60年9月 国際非線形力学会
誌第20巻5・6月号が林千博教
授記念祝賀号として発行される
昭和62年5月25日午後3時56分
逝去

故林 千博先生の ご葬儀について

林千博先生のご葬儀はキリスト教

弔 辞

住友電気工業株式会社 相談役

昭和九年卒 阪本勇

「林君」君は偉大な学者なので
私が「林君」などと言えば、君を
心から尊敬している多くの人達か
ら頻々買うだらうとは思います
が、同期の誼みで敢えて「林君」
と君づけで呼ばせて貰います。

僕が初めて君を知ったのは昭和
6年4月、共に大学に入った時で
す。あれからもう五十六年の歳月
が流れました。本当に年月の経つ
のは早いほのだとつくづく思いま
す。

君は秀才の集まるところとして
有名な三高の出身と聞いていたし
その風貌から見て之は大秀才に違
いないと威圧される思いがしたこ
とを記憶しています。
当時の高等学校では——少くとも
僕の出た大阪高等学校では定期

式により、昭和62年5月26日前夜
順で、しめやかに、かつ厳粛に執
り行なわれました。5月30日の告
別式では、約五百名の方々のご参
列を頂き、また多数の弔電を頂き
ました。心より厚く御礼申し上げ
ます。

彷徨つき廻ることが普通でした
が、君はそういうことには超然と
していましたというより、そんな
ことに君を誘うことをわざわざして
順で、しめやかに、かつ厳粛に執
り行なわれました。5月30日の告
別式では、約五百名の方々のご参
列を頂き、また多数の弔電を頂き
ました。心より厚く御礼申し上げ
ます。

當時はこうした君の行動は単なる
悪意から出た悪ふざけとわれ
われは考へていたのですが、後年
大学者となつた君を思うとあし
た行為も真理への探究心のあらわ
れだったのだと思ひ返されるので
あります。

今だから白状しますが卒業の時
君には一方なかなか茶目氣な所
がありました。幸い僕は二年間君
と同じ実験グループに属すること
が出来て色々と教えられることが
なつたのでクラスメートの成
績はお互いに知ることが出来ま
した。

ところが大学では成績は秘密で
他人の成績はわからぬことになつ
ていきましたが、平素の言動で自然
に判るもので君の学業の優秀さに
ついては別格視して敬服していま
した。ところが大学では成績は秘密で
他人の成績はわからぬことになつ
ていきましたが、平素の言動で自然
に判るもので君の学業の優秀さに
ついては別格視して敬服していま
した。

君の父上は三高の有名な国文学
の教授でしたし、御出身は四国の
由緒ある名家のこと故きと厳格
なしつけを受けたに違いありません
。そのせいでしょうわれわれ下
宿住まい寮住まいの者は、麻雀、
球つき、碁、将棋、スケート或い
はダンス等に耽つたり京極界隈を
は

試験の成績は一覧表として廊下の
壁に麗々しく張りだされることに
なつたのでクラスメートの成
績はお互いに知ることが出来ま
した。

九時始まりの電力会社へ入った訳
であります。
やがて、戦争そして終戦となり
君は本来の学究の道に戻りました。
それからは時々のクラス会に顔を
合わせる位の淡い交際が続きまし
た。其の間われわれ業界に出た
者があくせくとその日その日の業
務に明け暮れる間に、君の学業は
進み博士号を二つもとり、遂には
日本学士院賞という学者としては
最高の名譽に輝いた訳であります。

そのような偉大な学者をわがク
ラスから出したおかげでわれわれ
はずつと肩身の広い思いをさせて
貰いました。

僕には君の終生研究に没頭した
と聞く非線形振動学が何たるかを
知りませんが、それが戦後のわが
が、君の行く天国でやすまない

國否世界の工学技術の進歩に多大
の貢献をしたと聞いています。
併し、そのことよりも君が大學
にあって君と接することの出来た
多くの後進の人たちに計り知れな
い感化と影響を与えたことに注目
したいと思うのです。

二十六日の前夜祭の晩、君のな
きがらを納めた柩の前で君の訓育
を受けた多くの人達が君が如何に
やさしく親切に後進を導いたか、
君が真理の探究に如何に厳しかつ
たかということを交々語られるの
を聞いて特にその感を深くしまし
た。

でこの世と同じように活動を続け
てわれわれを待つていて欲しい。

そして此の世でそうであつたよ
うにあの世でもわれわれの先達と
して導いて載きたいと念願してい

ます。

これを心からお願いしてお別れ
のことばと致します。

昭和62年5月30日

友人代表 阪本 勇

恩師を偲ぶ

昭和二十二年卒 高月一

御入院中の林先生の御様子を奥様に電話で伺つたのは、訃報に接する四日前のことでした。昨年(昭和61年)3月末に先生にお目にかかつた時にはお元気でした。その後、コンパクトディスクの鐘の音について御手紙をいただき、余韻の響き具合や唸りの発生などを御指摘されお楽しみの様子を書いておられましたのに誠に残念です。

昭和21年秋、当時学生だった私は、新任の林先生から卒業研究の御指導を受けることになりました。

非線形振動の研究に熱中しておらが経過しました。

実験室での半田付けや雲形定規の仕上げ方など細かい点にまで御教示を賜り、大きな仕事のために細かい心遣いをと拝承した次第

でした。

私は卒業後、会社に就職し先生の御研究のお手伝いは、僅かしかできませんでした。しかし、先生は私に対し色々御配慮をいただ

き、折に触れて御激励を賜り本当に有難うございました。厚く御礼申しあげます。今後、先生の御精進振りを範とし、御遺志を継ぐよう努力いたします。

謹んで御冥福をお祈り致します。合掌

この世でそうであつたよう

にあの世でもわれわれの先達と

して導いて載きたいと念願してい

ます。

これを心からお願いしてお別れ

のことばと致します。

昭和62年5月30日

友人代表 阪本 勇

林千博先生を偲んで

徳島大学工学部 川上 博

私は林千博先生の末弟子として、うちにお祝いにあがるつもりでおられたことの最も多かった一人です。

移りになられ、深い悲しみのうちに呆然として、まだ立ち直れずに喜寿をむかえられるとき、近い

が経過しました。

林千博先生から卒業研究の御指導を受けることになりました。

非線形振動の研究に熱中しておら

が経過しました。

昭和42年修卒

昭和42年修

並びに役員改選議案についての説明があり、引続いて竹村幹事より昭和61年度決算の説明、池上幹事より同監査結果の報告があり、次いで竹村幹事より昭和62年度予算案の説明があった。以上各案件を審議の結果、それぞれ原案どおり可決されました。

なお、61年度決算、62年度予算については別表をご参照ください。

就職状況、入試状況、電気系教室の現状説明が詳細に行なわれた。教室引続いて池上教授より、教室人事、建物の改築方針などについて教室の中で教室改築については、

昭和62年年度会報新年号掲載広告募集状況

支部名	件数	総額	本部収入額	支部収入額
関西	12	120,000	60,000	60,000
中國	2	20,000	0	20,000
四国	3	30,000	0	30,000
本部	4	40,000	40,000	0
計	21	210,000	100,000	120,000
61年度	21	210,000	90,000	115,000

昭和61年度収支決算

昭和61年4月1日から昭和62年3月31日まで

(単位 円)		
科 目	決 算 額	予 算 額
会 費(学 部)	7,245,500	7,750,000
会 費(講習所)	462,300	450,000
預 金 利 子	403,184	250,000
広 告 掲 載 料	100,000	100,000
雑 収 人	13,000	10,000
収 入 小 計	8,223,984	8,560,000
前 年 度 繰 越 金	8,040,767	8,040,767
合 計	16,264,751	16,600,767

(単位 円)		
科 目	決 算 額	予 算 額
名 簿 編 集 費	0	0
〃 電算機処理費	0	0
〃 印 刷 費	0	0
〃 発 送 費	0	0
会 報 編 集 費	0	20,000
〃 印 刷 費	601,200	800,000
〃 発 送 費	1,411,424	1,550,000
備 品 費	0	0
通 信 費	107,400	120,000
会員原簿管理費	649,641	800,000
会 合 費	268,712	300,000
総 会 費	319,600	310,000
集 金 費	152,550	160,000
消 耗 費	286,430	400,000
旅 費	209,180	310,000
懇 話 会 補 助 費	200,000	200,000
支 部 交 付 金	2,735,900	2,753,900
事 務 人 件 費	720,000	720,000
雑 費	23,040	20,000
予 備 費	0	96,100
支 出 小 計	7,703,077	8,560,000
次 年 度 繰 越 金	8,561,674	8,040,767
合 計	16,264,751	16,600,767

預金及び現金(昭和62年3月31日現在)

信 託 預 金	1,000,000
定 期 預 金	6,900,000
当 座 預 金	241
普 通 預 金	514,232
郵 便 振 替	35,740
現 金	111,461
合 計	8,561,674

昭和62年度収支予算

昭和62年4月1日から昭和63年3月31日まで

(単位 円)		
科 目	予 算 額	61年度決算額
会 費(学 部)	7,400,000	7,245,500
会 費(講習所)	400,000	462,300
預 金 利 子	300,000	403,184
広 告 掲 載 料	2,700,000	100,000
雑 収 人	10,000	13,000
収 入 小 計	10,810,000	8,223,984
前 年 度 繰 越 金	8,561,674	8,040,767
合 計	19,371,674	16,264,751

(単位 円)		
科 目	予 算 額	61年度決算額
名 簿 編 集 費	15,000	0
〃 電算機処理費	220,000	0
〃 印 刷 費	3,800,000	0
〃 発 送 費	1,300,000	0
会 報 編 集 費	15,000	0
〃 印 刷 費	600,000	601,200
〃 発 送 費	1,470,000	1,411,000
備 品 費	0	0
通 信 費	100,000	107,400
会員原簿管理費	700,000	649,641
会 合 費	300,000	268,712
総 会 費	320,000	319,600
集 金 費	170,000	152,550
消 耗 費	400,000	286,430
旅 費	310,000	209,180
懇 話 会 補 助 費	250,000	200,000
支 部 交 付 金	0	2,753,900
事 務 人 件 費	720,000	720,000
雑 費	20,000	23,040
予 備 費	100,000	0
支 出 小 計	10,810,000	7,703,077
次 年 度 繰 越 金	8,561,674	8,561,674
合 計	19,371,674	16,264,751

支 部 名	交 付 金 額	支 部 名	交 付 金 額
北 海 道	5,700	関 西	912,700
東 北	13,400	中 国	227,500
東 京	1,241,400	四 国	133,100
中 部	103,000	九 州	76,100
北 陸	41,000	計	2,753,900

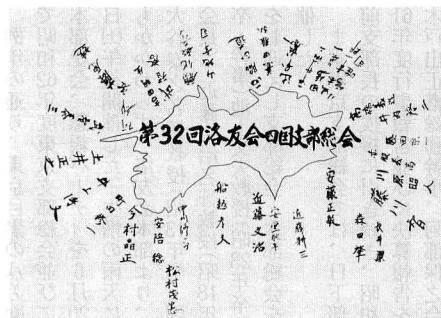
ているが、このようなときこそ、お互に卒業年次を越えて心を結びあい、それぞれの社会的発展への足場として相互の親睦と連繋をはかって行きたいと、挨拶するとともに、洛友会員に馴染深い京阪電鉄三条七条間の地下化が、巨費を費して最近完成し、営業を始めたことの紹介を付加え、盛んに拍手を受けた。

さらに高木副会長より教室の近況について、近藤常任幹事より洛友会の近況について、それぞれくわしいお話をうかがった。

総会のあと、オーロラの間に懇親会。大谷副会長の発声により乾杯、さらに副会長より、松田会長は、本日はご出席頂けなかつたをうかがい、大阪市北部の夕景色を俯瞰しつつ、賑やかな歓談が続いた。最後に、新支部長発声による万才三唱で会を了つた(十八時五十分)。

第32回洛友会 四国支部総会報告

6月5日金、高松市の旅館「新常盤」において第32回洛友会四国支部総会が開催された。本部から近藤名誉教授、安陪教授の御出席をいただき、支部からは32名



第32回洛友会四国支部総会



第32回 洛友会四国支部総会 昭和62年6月5日 於 新常盤

の会員が集まつた。

総会は近藤先生のウイットとんだ挨拶に始まり、安陪先生から電気教室近況のお話しの後、会務報告・予算案審議を行ない無事終了した。引き続き懇親会に入り、先生方との歓談や久しぶりに顔を合わせた先輩方や友人と酒を酌み交しながらの談笑など、楽しいひとときを過した。

翌日、近藤、安陪両先生は、完成間近の瀬戸大橋の遊覧観光に出かけられ、無事京都へ、お帰りになつた。

以下は近藤、安陪両先生の隨行記である。
〔昭和54年藤川記〕

暑い中、四国支部より阿部、藤原、川原の3名がお伴をして観光に出発、まず、本四連絡橋児島・坂出ルートの建設状況を海上より見学しました。瀬戸内海と吊橋、斜張橋、トラス橋などが見事に調和している様に全員感嘆しました。

名物の讃岐うどんを食べた後、四国地方の特色である古い民家を一堂に集めた四国村を見学、両先生とも暑さにかかわらず、精力的に見学された後、夕方お疲れも見せず無事帰京された。

〔昭和50年卒 川原記〕

6月6日(土)梅雨入り直前の蒸し暑い中、四国支部より阿部、藤原、川原の3名がお伴をして観光に出発、まず、本四連絡橋児島・坂出ルートの建設状況を海上より見学しました。瀬戸内海と吊橋、斜張橋、トラス橋などが見事に調和している様に全員感嘆しました。

名物の讃岐うどんを食べた後、四国地方の特色である古い民家を一堂に集めた四国村を見学、両先生とも暑さにかかわらず、精力的に見学された後、夕方お疲れも見せず無事帰京された。

大正14・15年 14日会(第27回)

同窓会だより

昭和初年、故一本松珠璣君、故木津主藏君、少し遅れて小宮義和君も加わって、中心となり、毎月14日に集まつた、電気クラブ昼食会がもとになって、昭和35年5月、

京都に集り、故清水先生、故鳥養先生、故岡本先生以下に、久振りにお目にかかつた。

その翌年、故石川辰雄君のお世話で、熱海に家族同伴で集まつてから、各地で年一回会合。東は東北から、西は九州まで、すでに27回集まつた。

その間、前記四君のほか、故宮田秀介君、故平井寛一郎君、故大久保達郎君、故佐々木英四郎君、故吾君侃二君、故前田安道君、故橋本眞吉君、それに現存の佐川重雄君、富永和郎君らのお世話になつたが、近年は、口羽玉人君と田中卓次君が、最も沢山お世話をして下さつた。

今年は昭和62年、5月12日、京都大原三千院で写経ののち、鞍馬山の麓の貴船で、老舗ひろやに一泊した。

6月5日は江文峰を抜けて上賀茂夜の宴会では、口羽夫人の謡曲「鉄輪(かなわ)」で、昔、五徳(鉄輪)の三本脚に蠟燭を立てて、後妻を祈殺そと、貴船神社へ「丑の刻参り」をした、昔を偲んだ。

二日目は江文峰を抜けて上賀茂夜の宴会では、口羽夫人の謡曲「鉄輪(かなわ)」で、昔、五徳(鉄輪)の三本脚に蠟燭を立てて、後妻を祈殺そと、貴船神社へ「丑の刻参り」をした、昔を偲んだ。

江文峰を抜けて上賀茂夜の宴会では、賀茂別雷神社に参詣。そこには、一昨年、これも口羽君のお世話で拝観した、5月15日の葵祭の「走り馬」神事の柵が造られているのを見ることが出来た。

それから鷹ヶ峰光悦寺に向い、お庭を賞美したのち、昭和23年創業で、「ウールお召し」で売出した「しょうざん」のお庭拝見。

(「しょうざん」は創業者、松山政雄氏の名を採った)。ここで昼食后散会。



京大十四日会 62.5.13 案 京都しょうさん

なは来年は、5月17、18日に、名古屋の北の大山での開催を、田中卓次君が引受けた。今回の参加者は、会員十人・夫人（未亡人を含む十二人）。合計二十二人。（K）

卒業五十周年記念 クラス会報告

洛友昭和12年会

幹事 田崎高義

私共昭和12年の卒業生は、今年春で芽目度く卒業五十周年を迎えることとなつた。昨年10月東京に集まつた第四十九周年クラス会の席上でこの意義あるクラス会は、母校の近況見学も兼ねて京都で盛大に行なおうとの方針を決定し、具体的案は地元在住の清野君に一任することとなつた。その後12月に清野君が推進委員長をしている日本墨相展の選抜展が銀座で開催されたのを機に、在京会員六名の参集を求めて細目を検討し、桜の開花期も考慮に入れて原案通り4月9日に実施することにした。

我が同期生会は、洛友昭和12年会と名乗ることとし、簡単な会則も定めた。会員は卒業時42名であったが、この五十年間に15名が他界し、音信不通の会員が2名あり、又病気等のため出歩けない人も6名ほどあるという条件の下で、

校の校長に就任が決まり、武道館での入学式に初訓示を述べることになった正木君とが止むを得ず欠席となつた。とはいへ会員17名、準会員5名が参加されたのは予期以上の盛会であった。

当日は、予想に違わず桜花爛漫の京都であり、天候は多少下り坂ではあつたが、夕刻迄は花曇りのまま何とか持ちこたえてくれた。会員は北門前の進々堂喫茶店に定刻前から三々五々集まり、定刻三時には全員集合を完了し、直ちに電気系三教室と情報工学教室の見学に移つた。

電気工学教室は玄関の部分が元のままに残されていただけで、昔の中央実験室は中庭となり他の建物も鉄筋コンクリート四階に生れ変わり、その内容は更に大きくなり、その内容は更に大きくなり変わっていた。清野君の手配で、本年度完成予定の最新のコンピュータネットワークシステムについて図面で詳しく説明され、实物を見せて下さつた。これはバックボーンネットワークという光ファイバーのエンドレスループに大小、

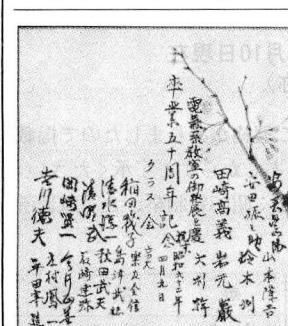
さすがに半世紀の時の流れは我々を旧時代の者として痛感させるのに充分であった。長尾教授の研究室では、日本語を英語に翻訳するためのコンピュータソフトの研究に取り組んで居られた。又丸や四角や三角の物体を視覚センサで捕らえ、その相互位置関係を確認するデモンストレーションを見せていただきだ。

情報工学教室では、矢島教授とその一門の人々が、三年継続予算で本年度完成予定の最新のコンピュータネットワークシステムについて図面で詳しく説明され、实物を見せて下さつた。これはバックボーンネットワークといふ光ファイバーのエンドレスループに大小、

当初の参加予定者が健闘で動ける人全員と、夫人同伴5名に未亡人1名を加えて合計25名という嬉しいスタートであった。併し開催直前になつて、結婚婚約人の代理として急きょハワイに飛んだ中島君夫妻と、4月1日に日本電子工業院の理事並に同学院の専門学校二院の校長に就任が決まり、武道館での入学式に初訓示を述べることになった正木君とが止むを得ず欠席となつた。とはいへ会員17名、準会員5名が参加されたのは予期以上の盛会であった。

当日は、予想に違わず桜花爛漫の京都であり、天候は多少下り坂ではあつたが、夕刻迄は花曇りのまま何とか持ちこたえてくれた。会員は北門前の進々堂喫茶店に定刻前から三々五々集まり、定刻三時には全員集合を完了し、直ちに電気系三教室と情報工学教室の見学に移つた。

電気工学教室は玄関の部分が元のままに残されていただけで、昔の中央実験室は中庭となり他の建物も鉄筋コンクリート四階に生れ変わり、その内容は更に大きくなり変わっていた。清野君の手配で、本年度完成予定の最新のコンピュータネットワークといふ光ファイバーのエンドレスループに大小、



ンが多数実装されていて、文書作成、画像処理、図面処理、記録作成、蓄積取り出し、ディスプレイ等、現代の最先端技術のケイパビリティを遺憾なく発揮できる一大システムが、今我々の眼前に生まれつつあるというすばらしい感激にひたることが出来た。特に印象が深かったことは、我々の後継者である若者達が、いわゆる新人類と呼ばれるグループに世代的には属している筈であるが、この最先端技術を自由自在に駆使している

頼母しさである。半世紀若いこれらの若者達が明日の日本を背負って世界のトップを切つてエレクトロニクス時代を悠々と闊歩するたましい開拓者になるものと確信できたことである。

卒業五十周年記念クラス会は、夕刻から染友会館南室で、なごやかに楽しく多彩に繰り広げられ時が過ぎるものも忘れて五十年ぶりの久闊を叙することが出来た。更に21世紀まで相互に生きのびて、生き甲斐のある人生を続けようと思いつつこの有意義なクラス会を開じた。記念の寄せ書きと記念撮影の一枚を掲げて皆様への御報告を終る。

洛友二会報告

卒業40周年にあたり、昭和61年11月22日京都洛北の山ばな平八茶屋で松田、大谷両先生をお迎えしてクラス会を開催致しました。

参加者は25名で両先生を囲み、晩秋の一刻歓談しました。松田先生には後一週間で満93才の御誕生日をおかれ、ますます御元気な話振りでした。また大谷先生から思い出話、感想、現況等のお話を興味深く、聞入っていました。

翌23日朝8時に観光バスで洛北阿弥寺、近江日吉神社、宇治の万福寺、南山城の休寺及び淨瑠璃寺を歴訪して18時近鉄奈良駅で散



会しました。

クラス会出席者(敬称略)

*沼内、池上、池見、梅村、小川、
 大川、大須賀、金田、中原、木村、
 日下部、小宮山、志村、下村、菅
 藤間、藤本、増岡、美咲、室賀、
 山根

(*印観光出席者)

会員寄稿

中國雑記(2)

陶坊資

昭和二十三年卒

喧嘩

喧嘩

前回に引き続き、日中の差につ

いて、「もう少し考えて見よう。よく「中國人は大陸的」日本人は島国根生」と云う様な言い方を聞く。そこで次の様な情景を思

い起す事とする。

空港にて

中国の空港で、予定期刻が来ても、飛行機は来ない、アナウンスもない、一体どうなったのかサッパリ分からぬ、そして何時も待たされる……という事は、多くの旅行者が体験している。この様な時に、立つたり坐つたり、いても立つても居られず、イライラする乗客、係員を揃えて情報を聞き出そうとし、その剣もホロロの返事に忽ちカッカと頭に来る旅行者、

これらは必ず日本人である。

欧米人は一般に悠然としている。

案内所等で、中国の係員と青筋立

てて口論する欧米人など、私は見たことがない。

中国人は始めから時間をあてにしないのか、全く動じない。逆に

イライラカッカする日本人を不思議

議そうに眺める。恰かも「少し位遅れてもどうという事もあるまい

に」「イライラカッカは、体に毒だぞ」「人生は未だ未だ長いんだ

ぜ」という様に。

「ああせいせいした!!」というの最も痛快な解決方法である。

「どうも」「すみません」

日本人は、やたらに「すみません」を連発する。実際に済まない

事をした時は勿論の事、何か頼む時や、何かをして貰う時等、皆

「すみません」と云う。「有難う

「御苦労様」の意にでも「すみません」と云って通じるのだ。最近

は更に簡略化して「どうも」だけとなってしまった。外国人が日本に來て最先に覚え、且つ最も多く

出くわす言葉が「どうもどうも」である。

中国でも、よく喧嘩を見かける。
 中国人の喧嘩の哲学は、「決して手を出してはならない」「大衆の公平な審判にまつ」である。だから喧嘩が始まると、弥次馬がどつとり開み、喧嘩が果てしなく続く。口論というよりは、まわりの弥次馬に對して、相手がどんなに悪く自分が如何に正しいかを、淡々として訴えるのが目的であり、別に相手を説得するためではない。

(中国語では「对不起」)を用いなさい。道でぶつかったり、満員車内で足を踏まれても、必ず「すみません」という言葉を聞くことはなかろう。一旦「すみません」と云ってしまったら、自己の誤りを認めることであり、これで結論が出たことになってしまふからである。そしてこれでは後が続かないのだ。

欧米大陸でも同様で、どちらか

即ち「自分に正当な理がないからこそ、手を出さざるを得なくなつた」と解釈され、大衆から結論を与えられてしまったからである。

日本ではこんな時、「えい!!」「めんどうだ」「問答無用!!」とポカッとなぐつてしまい、それで

本編は本号掲載分、全編掲載できなかったことを著者並びに読者各位におわび申し上げます。

会員住所変更一覧表

昭和62年5月10日現在
(表中略敬称)

前号(昭和62年4月号)に題記発表後5月10日までに次の会員各位の住所変更のご連絡がありましたので掲載致します。これ以後の分は、掲載記事頁数の関係上次号掲載とさせていただきます。あしからずご了承ください。表中卒業年次の次の数字は、1:電気、2:電子、3:電Ⅱ、5:昭16.12月卒、6:昭28新制卒、8:講習所卒を示します。(以下次号)

卒業年	氏名	住所	番	電話
大068	佐伯勲	和泉市府中町 810-10	594	0725-45-3696
〃118	田所四郎	香川県三豊郡詫間町積 185	769-12	0875-84-6624
昭020	田野夫	広島市中区白島九軒町 16-8	730	082-221-1034
〃060	道臣	泉市寺岡 4-18-4	981-32	022-378-7977
〃068	樹	奈良県生駒郡三郷町勢野東 1-4-28 (表示変更)	636	
〃108	雄	堺市樋塚台 3-12-16	590-61	0722-92-9035
〃128	直	茨城県稻敷郡茎崎町森の里 35-2	300-12	0298-76-2786
〃130	正	東京都渋谷区本町 1-18-11	151	
〃138	信	東京都世田谷区桜 3-5-1	156	03-706-1091
〃138	春	春日井市東山村 2-6-27	486	0568-83-1713
〃148	進	京都市北区紫野北舟岡町 14	603	075-432-6124
〃148	弘	京都市伏見区醍醐上山口町 60 南団地6-105	601-13	075-572-8572
〃150	潔	京都市中京区壬生辻町 24	604	075-841-2155
	保	守口市河原町 1 大阪ゆうゆうの里 1019号	570	06-993-1720

卒業生	氏名	住所	番	電話
昭150	北爪 隆夫	東京都練馬区大泉学園町8-7-28	178	
" 165	西村 正太郎	豊橋市北山町字東浦2-1 高師住宅1-103	440	0532-46-5416
" 190	岡本 孝治	神戸市須磨区白川台2-39-1	654	078-794-0301
" 190	川村 孝延	高知市廿代町8-7	780	0888-72-9257
" 220	久場義隆	福岡市西区野方3-14-22	814-01	092-811-3737
" 240	安房淳夫	鎌ヶ谷市西道野辺2-10-406	273-01	0474-44-8880
" 260	安田嘉之	仙台市支倉町4-40-1006	980	022-268-6236
" 270	龍澤善信	熊本市保田窪1-4-3-405	862	096-383-8595
" 280	佐藤和夫	横浜市保土ヶ谷区権太坂3-25-18	240	045-714-8045
" 290	高木正博	川崎市多摩区南生田6-38-1	214	044-976-4303
" 290	小林晃	草津市南笠町452-2	525	0775-64-6202
" 320	高伊 貞男	横浜市栄区飯島町25-46-43	244	045-893-1320
" 290	倉野昌夫	西宮市甲子園七番町17-28-A-503	662	0798-41-8531
" 320	木村光男	広島市西区庚午中2-6-33	733	082-273-5592
" 320	山本彬	川崎市麻生区王禅寺663-117	215	
" 331	馬場俊	神戸市須磨区竜ヶ台7-13-6	654-01	078-794-1415
" 331	廣黒田 豊	下松市東農井1921-15	744	0833-43-5018
" 341	黒村昭久	川崎市宮前区初山2-21-20(表示変更)	213	044-977-5233
" 341	尾村彰	岩国市藤生町3-32-4 中電社宅	740	0827-31-7021
" 351	稻村博	西宮市上ヶ原八番町14-37	662	0798-53-4473
" 351	大宮賀寿	千葉市稻毛台町5-14	281	0472-62-2423
" 361	佃作	富山市永楽町8-4	930	0764-33-9563
" 371	牧往	西宮市高須町1-1-1-604	663	0798-43-0193
" 381	山村穰	広島市安佐北区安佐町あさひが丘505	733	082-838-1835
" 382	中村韶	神奈川県三浦郡葉山町一色530-93	240-01	0468-75-7416
" 391	井上雅	北九州市八幡西区鉄王1-10-310-401	806	093-631-6695
" 391	胡間圭	横浜市泉区和泉町6205-1-28-501	245	045-802-4097
" 391	高橋邦	多摩市聖ヶ丘1-11-5	206	0423-71-7243
" 391		生駒市谷田町1347 ライオンズ マンション生駒第二401号	630-02	07437-5-1275
" 403	佐藤正夫	東京都大田区田園調布本町6-11	145	03-721-2545
" 413	菊井量一	広島市西区古江上1-641-1	733	082-273-6131
" 413	黒田重信	岡山市西古松28-1	700	0862-44-0324
" 421	山下聖八郎	藤沢市大鋸1-7-20	251	0466-24-5416
" 422	崎進	愛知県知多郡阿久比町大字福住字高根台30-3	470-22	0569-48-5298
" 423	阪口直史	大津市馬場3-9-11	520	0775-22-6887
" 423	安井徳政	大阪市阿部野区阿部野筋4-7-15 安井武雄方 (留守宅)	545	06-622-4670
" 423	渡邊明正	東京都中野区江古田4-33-11-305	165	03-228-2060
" 423	安藤詔生	大津市比叡平2-9-11	520	0775-29-0347
" 433	垣花彦	市原市椎津1353-4 住友化学椎津社宅243号	299-01	0436-61-5158
" 433	広川正	東京都新宿区住吉町4-1 四谷ガーデニア406号 (表示変更)	162	03-351-8402
" 441	産田啓昭	海老名市国分3099-2	243-03	
" 441	片岡正夫	府中市天神町1-12-1 東芝天神町アパートA304	183	0423-69-9870
" 443	森克彦	福山市幕山台8-166	721	0849-47-7854
" 443	松下茂	東京都練馬区豊玉南3-24-3-102	176	03-948-4844
" 451	塩見邦	武蔵村山市学園2-36-1 武蔵野住宅1-501	190-12	0425-62-7614
" 463	粉生正	東京世田谷区下馬1-54-13-106	154	03-422-9478
" 471	山川邦	高槻市寺谷町11-8	569	0726-87-7114
" 473	種野正	船橋市夏見台3-10-3-305	273	0474-30-2156
" 473	松尾隆	豊中市東泉丘1-5-3-305(駐米留守宅)	564	06-852-5006
" 481	森清	日立市諏訪町4-9-9	316	0294-34-6363
" 482	細水見	東京都目黒区南1-19-1-210	152	03-723-3328
" 482	森頭達	京都市左京区田中西春菜町14	606	075-781-6967
" 483	清鬼外	仙台市川内無番地川内住宅第一地区11-1003	980	022-262-7190
" 483	細鬼外	東京都世田谷区上用賀2-5馬事公苑 ハイム2-207 外村善一方(留守宅)	158	03-420-9910
" 491	武藤明則	尾張旭市下井町前の上1622-2 (改名)	488	05615-2-0736
" 492	高岡義寛	西宮市高須町2-1 公団武庫川29-505	663	0798-43-0513
" 492	細野文雄	奈良市松陽台2-1899-82	631	0742-49-1745
" 492	安藤吉雄	東京都世田谷区千歳台3-30-17	157	03-484-4014
" 493	藤本靖	ベルヴェデール・ヒロ403		

卒業年	氏名	住所	番	電話
〃501	伊藤高志	国分寺市東恋ヶ窪 4-15-9 ネオコーポ国分寺211	185	0423-25-5816
昭501	杉本卓朗	奈良市朱雀 5-19-3	631	0742-71-8194
〃503	吉田俊郎	横浜旭区中希望ヶ丘 11-3-305	241	045-364-6559
〃512	北川雅彦	天理市櫟本町 2613-1 シャープあけぼの寮408	632	
〃521	近藤直人	伊勢原市石田 861-1 NTT 社宅7-306	259-11	0463-92-2670
〃522	田中正人	東京都品川区北品川 5-7-14 グローリア初穂402	141	03-473-3429
〃523	林良樹	赤穂市中広 264 関電社宅101号	678-02	07914-5-1565
〃531	太田成潔	藤井寺市林 1-165-35	583	0729-52-3015
〃531	竹内一	横浜市南区鶴町 2-41 ライオンズ・	232	045-721-1696
		マンション蔵田206号		
〃532	新見康司	東京都豊島区駒込 1-12-12 日本たばこ産業社宅	170	03-942-9753
〃532	札見宣夫	横浜市鶴見区馬場 5-17-50	230	045-572-8090
〃533	岩坂冬樹	柏市十余二 134-12 シティパラス柏512	277	0471-54-0538
〃533	壁山一	東京都練馬区北町 6-27-15 コーポ藤202号	176	03-931-5867
〃541	桐原千一	国分寺光町 1-44-18 JR 国立 AP 1-406	185	0425-75-2134
〃542	網谷弘	京都市南区久世大藪町 525-8	601	075-934-3265
		サンレスポアル1115号		
〃543	伊藤八輔	府中市分梅町 1-7 スカイブルーコーポ101号	183	0423-68-3601
〃543	十倉啓輔	奈良市登美ヶ丘 5-11-3 堀方(連絡先)	631	0742-49-0648
〃551	遠藤実	川崎市中原区宮内 42 宮内ハイツ307	211	044-751-0113
〃552	野崎彦雄	西条市神辺南原 93-1 石川ハイツ302号	793	08975-3-2958
〃552	松村茂雄	東京都千代田区四番町8 松村薬品商会方	102	03-265-4511
〃553	黒須隆志	国分寺本町 4-18-7 第1下田荘 2 F 7	185	0423-21-9062
〃553	横充	八王寺市館町 1097 館ヶ丘団地2-11-216	193	0426-45-8779
〃561	今野雅博	国分寺市本多 5-21-14-B-4	185	0423-23-8796
〃561	則竹安	奈良市右京2 平城第2団地60-101	631	0742-71-9002
〃561	藤田京一	高松市上之町 3-6-10 四電上之町寮410号	761	0878-66-6898
〃562	中谷彦	京都府綴喜郡田辺町河原北口 32-1	610-03	07746-3-4823
		シヤルマンコーポ新田辺509号		
〃563	谷口慎也	安城市横山町毛賀知 38-2 コーポ横山401号	446	0566-77-2824
〃563	山下淳一	川崎市中宗区下小田中 565-402号	211	044-752-1680
〃572	井上徹彦	藤沢市湘南 4-2-14 サンコーポ湘南	252	
〃572	小平雅志	日立市木津津町3923 日立電線南丘寮A棟414号	319-14	
〃573	林田栄志	広島県佐伯郡能美町中町水野元	737-23	0823-45-4275
〃581	大谷浩彦	調布市鷺野台 1-55-1 コーポえびすい204	182	0424-89-1408
〃581	木原浩良	亀岡市大井町並河 2-15-4	621	
〃582	三堀隆志	枚方市三栗 1-1-14 シヤンテ御殿山604号	573	0720-47-3903
〃582	堀二敏裕	横浜市緑区荏田南 5-20-11-202号	227	045-941-8279
〃583	脇田明裕	豊田市保見ヶ丘 5-1 公団134-406	470-03	0565-48-8144
〃583	安藤裕朗	名古屋市北区金城 3-8-6	462	052-915-3406
〃591	安藤憲一	藤沢市藤沢 3-4-24 花の木5寮318	251	0466-26-9333
〃591	川原憲一	藤沢市大庭 6053-M38-2-4 メゾンファミールⅡ201	251	0466-87-8401
〃592	原田智彦	茨木市沢良宣浜 3-5-8 サントリー第3茨木寮	567	0726-32-3157
〃592	服部保彦	岐阜県安八郡安八町大森 180 三洋男子寮1-408号	503-01	0584-64-3676
〃593	富永浩一	枚方市朝日丘町10-49 三洋電機第1田宮寮C-3	573	0720-45-2985
〃601	花田敏喜	堺市上野芝町 7丁 5-201	593	0722-44-0655
〃601	宮本弘明	徳島県三好郡池田町シンマチ 1442-2 四電池田寮	778	0883-72-0967
〃603	日野洋一	相模原市上鶴間 6-24-15 東林間ハイツ103号	228	0427-48-4844
〃603	浦口憲	久喜市東 2-5-36 ツツミハイツ201	346	0480-22-4572
〃603	山口憲	東京都練馬区豊玉中 3-15 宮本マンションA206	176	03-994-0113

男性的な空梅雨も終り、京都も祇園祭の季節を迎えました。本号は故林千博先生の追悼記事掲載のため、ご寄稿記事の全文を掲載できなかつた著者に深くお詫致します。なお本年は名簿改訂期に当ります。よろしくご支援の程を！

編集後記